◆リレー寄稿
復興活動を生協の事業と連動して

みやぎ生協
専務理事　宮本　弘氏

皆さんからのご支援に心から感謝申しあげます。みやぎ生協では、地域の組合員が中心となり、被災者に寄り添いながら「心」を癒すお茶会の開催などのボランティア活動を被災地各地で定期的に開催しています。また生協事業の柱である「食」をキーワードに地域の産業の復興をめざす「食のみやぎ復興ネットワーク」を結成し、商品開発や普及活動を多くの生産者・メーカーと協力してすすめています。同時に買い物支援のための移動販売や仮設住宅への灯油プレゼントなども行なっています。

震災から 10 カ月が経過しても復興はまだまだこれからです。

私たちは、被災地の生協として、復興の取り組みを生協の「事業」「運動」そのものとして、継続し続けていく決意ですので、引き続きご支援をお願いします。

復旧・復興へ生産者・組合員・職員が心を一つに

12 月 7 日、「第 30 回宮城県めぐみ野交流集会」が仙台国際センターで開催され、約 1,300 人が参加しました。これは生産者や組合員らが共に学び、交流を深める目的で毎年行なわれ、今回は震災からの復旧・復興が主なテーマでした。集会では、被災した生産者への支援募金の贈呈の他、生産者・みやぎ生協職員・組合員それぞれの立場から実践報告が行なわれました。みやぎ生協共同購入南支部チーフの曽田洋子さんは、津波の爪あとが残る中、宮城県漁協志津川支所のカキ生産者が「組合員さんにおいしいカキを食べてもらいたい」と奮闘する姿に、「生協職員として頑張らねば」と感じたそうです。

交流会参加者は「人の温かさを感じる交流会だった」「復興へと力強く取り組む報告に心を打たれた」との感想を述べ、復興へ決意と連帯を新たにしました。

被害の大きかった生産者団体へ、支援募金が贈呈された。

生産者からは、震災からの復興に対する報告があった。

大分で「ふくしまっ子応援プロジェクト」開催

子どもたちにスケジュールを説明。3 日目は、遊園地で思いっきり遊んだ。

ふくしまっ子、大集合。

12 月 25 日から 3 泊 4 日の日程で福島県南相馬市の小学 5 年生 30 人を大分県に招く「ふくしまっ子応援プロジェクト」が開催されました。このプロジェクトは、大分県ボランティア・市民活動センターを中心とした県内 9 団体の協力により、屋外で遊べない福島の子どもたちに楽しい時間を過ごしてもらうのが目的です。

きっかけは、8 月の「コープおおいた・コープふくしま復興支援交流会」でした（本誌第 2 号参照）。大分県内で被災地支援の輪を広げようと組合員、取引先、支援団体などから幅広く参加を募ったこの交流会に同センター事務局長の高橋賢一さんが参加し、福島の実情を知ったことがプロジェクトにつながりました。

コープおおいたの青木博範専務は、「自分たちだけでは限界があるが、より大きな支援のきっかけになることはできる。その思いが形になり始めました」と手応えを口にしていました。

【一言メッセージ】
- 被災した職員も組合員も、率先してボランティアしている姿がすごい。（神戸・A さん）
- 「不安だ」という言葉を口に出してはいけない雰囲気が、県内にはあります。（福島・N さん）